

普及だより

令和3年2月 Vol.

110

# くにみ

発行：伊万里農林事務所  
西松浦農業改良普及センター  
TEL(0955)23-5128 FAX(0955)23-5138  
imarinourin@pref.saga.lg.jp

## NEWS TOPICS

# 「伊万里・有田地区 農業女子交流会」を 開催しました!



令和2年11月26日に開催した交流会は、女性農業者同士が交流を深め、ネットワークづくりのきっかけとすることを目的としており、平成30年度から開催しています。今回は3回目の開催で、若手女性農業者13名と、農業女子ネットワーク企画会議（女性の農業者・農業委員・JA理事、関係機関）のメンバーを含めた25名が参加しました。

第1部では、株式会社塚島ファームの塚島信子氏から、「STELLA〜星〜ジェラートで輝く笑顔があふれてほしいと願いを込めて」と題して講演していただきました。自身の就農当時のことや、ジェラートづくりへのこだわり、仕事と家庭の両立において工夫していることなど、前向きで刺激のある話を聞くことができました。第2部では分科会を実施し、「これから挑戦したいこと」をテーマに、2グループに分かれて意見交換を行いました。塚島さんの話を聞いて、踏みとまっていたことに挑戦しようと思った方もおり、前向きな意見交換が行われました。



地域農業を牽引する農業者の皆様

# 「佐賀農業賞」受賞

先進的農業  
経営者の部

優秀賞・特別賞「佐賀新聞社賞」

伊万里市 西山 哲・和枝夫妻

西山夫妻は、昭和43年に就農し52年の長きにわたり夫婦で営農されています。その間、夫婦ともに地域農業に関わる役職を歴任され、地域農業振興に尽力されてきました。近年では、新たな播種機を用いた水稲の乾田直播栽培に挑戦し、水稲栽培の省力化技術の確立に向けて取り組んでおられます。

審査では、新技術への取り組みや、地域でもいち早く家族経営協定を締結し、夫婦間の役割分担を行ってきたことが高く評価されました。

今後、後継者の就農を契機に、さらなる経営発展が期待されます。



若い農業  
経営者の部

優秀賞

有田町 池田祥二・拡子夫妻

池田夫妻は、平成29年にキンカンハウスを第三者から継承して就農されました。現在は施設キンカンだけでなく、施設アスパラガスや水稲にも取り組まれています。害虫の発生状況に基づいた防除や防除方法の工夫をされ、環境にやさしい農業に取り組んでいます。また、アスパラガスやキンカンで地元小学生の農場見学や収穫体験の受け入れが行われています。施設キンカンは「生食」で食べるのが一番ですが、その認知度が低いと感じておられ、もっと多くの人に気軽に食べてもらえるよう施設キンカンの消費者の認知向上を目指されています。

今後、ますますのご活躍が期待されます。



## 中山間の先進事例に学ぶ

令和2年11月7日に、JA伊万里にて集落営農リーダー研修会を開催しました。

福井県の農事組合法人「エコ・ファームてらお」の取り組み内容の紹介後、パネルディスカッションによる意見交換会を行いました。

「エコ・ファームてらお」では、オペレーター確保のために、代表自ら、若手後継者の職場まで、有給取得のための交渉に行くとのこと。また、若手の機械の操作技術習得のために、独自のマニュアルを作成し、育成計画を立てているとのことでした。法人の規約には、法人への丸投げはできず、各個人がやれることを責任もってやるということが盛り込まれていました。



会場からは、「若手を機械に乗せるときはどんな研修をさせたいか」「みんなが作業に出てくるようにするまでの過程について知りたい」等の質問が出され活発な意見交換が行われました。

## 集落営農の担い手確保

〜集落全体で取り組むために〜

管内の中山間地域では、農業の担い手不足が深刻化しており、地域農業維持のためには早急な担い手確保が求められています。

伊万里市二里町の中田集落では、担い手確保に向け作業計画を作成する取り組みを開始されました。作業計画を作成する一番のメリットとしては、「早めに計画することで兼業農家が休暇を取得しやすい」ことが挙げられます。

令和2年度は、基幹作業である水稻の田植え、稲刈りにおいて作業計画を作成され、作業の約1か月前に日程を提示されたことで、若手後継者も早めに予定を組むことができ、作業にできてくれる人が増加しました。



この取り組みを通じて、担い手確保はもちろんのこと、後継者への技術継承などさらなる集落営農活動維持に向けた効果が期待されます。

## 笠椎機械利用組合、中田集落営農組合の合同視察研修!

令和2年11月14日に継続可能な農業を目指して活動されている佐賀市三瀬村の「中鶴機械利用組合集落営農」への視察研修に行きました。

集落内での各組織との連携活動や水稻直播きおよび飼料米への取り組み、集落を丸ごと囲んだ獣害対策、佐賀大学との交流活動等の話を聞くことができ、「厳しい自然条件の中、頑張っている地域があるなあ」と感嘆の声が聞かれると同時に、活発な意見交換がなされました。

今後、笠椎機械利用組合および中田集落営農組合は、研修で得られたことを糧に地域性を活かし、さらなる組織運営の充実を目指します。



# さが園芸生産888億円推進 運動を知っていますか？



## さが園芸888運動

チャレンジ！活気あふれるさが園芸へ

本県の園芸農業の産出額を、令和10年に888億円に向上させることを目指し、「さが園芸生産888億円推進運動」が、令和元年度より始まりました。

昨年年度から、関係機関を中心に伊万里・有田地区推進支部を立ち上げ、農協及び農協の各生産部会と連携して、部会毎に園芸産地888計画の策定を行い、昨年度6部会、今年度4部会の産地計画書の作成を行っています。

今後、農業所得向上に向けた収量・品質の向上や経営規模の拡大、経営コストの削減など、

園芸農業の確立に必要な施設・機械等の整備を推進します。また園芸農業に取り組む新規就農者の確保や省力化、新技術、新品種等の普及を目指します。



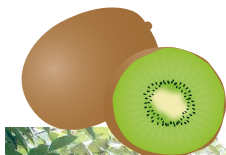
令和2年キュウリ新規就農者鉄骨ハウス

# キウイ就農セミナーを開催しました

令和2年9月27日に「キウイ就農セミナー」を開催しました。このセミナーは、伊万里西松浦青年農業者等対策協議会とJ A伊万里キウイフルーツ部会が連携して開催しており、今回で3回目となります。

今回は台風の影響により室内のみでの開催となりましたが、参加された2名の方からは、苗木の入手方法や圃場の選定、植栽や果樹棚整備の時期、補助事業の活用など、就農に向けた具体的な内容の質問がありました。

キウイフルーツ部会としても、キウイフルーツを栽培する仲間が増えることを期待されており、関係機関とともに就農に向けたサポートを行っていきます。



園地見学の様子（R元年度）



富永 正照 氏（波多津町）

平成26年に農協を退職し、就農して今年で7年目になります。両親がイチゴを栽培していたので就農当時は一緒に栽培していたのですが、夏場の収益を確保するため翌年キュウリの雨よけ栽培を始めたのをきっかけに、キュウリの周年栽培へと転換し、現在は施設38aに雇用を3名入れています。昨年は、佐賀県野菜生産改善共進会個人の部で「最優秀賞」を頂くことができ、今後の栽培の励みとなりました。またキュウリ部会の若手グループ「胡青会」の会長も仰せつかり、若い仲間と技術研鑽を行い部会のレベルアップに努めています。今後は毎年30t/10a以上の収量を目指すとともに、地区でナシの休耕地が増加しているのを、それを活用して「シャインマスカット」を栽培してみたいと思っています。